

地域医療の現場から

そもそも坐骨神経とは、腰から骨盤、お尻を通って足の指先まで伸びる末梢神経で、人の指の太さほどある最も太い神経です。また、非常に長い神経でもあり、末梢までの長さは1メートル以上もあります。下肢を支配する神経で、脳からの運動指令を伝え、「歩く」、「体のバランスをとる」といった働きをしています。

坐骨神経痛とは、病名では



セコメディック病院
整形外科

なく症状を表わす言葉です。お尻から下肢にかけて現れる痛みやしびれ、麻痺などの症状のことで、何らかの原因により坐骨神経が圧迫されたり刺激を受けることで生じます。その原因のほとんどが「腰部脊柱管狭窄症」や「腰椎椎間

り、神経が圧迫され、下半身に痛みやしびれ、麻痺や「間欠性跛行(かんけつせいはいこう)」と呼ばれる歩行障害を伴うこともあります。間欠性跛行とは、立ったり歩いたりすることにより、下肢の痛

「坐骨神経痛について」

板ヘルニア」です。

腰部脊柱管狭窄症とは、文字通り「腰の背骨の中を通る脊柱管という神経の通り道が狭くなる」状態で、50代を越えた中高年に多く見られます。老化により脊柱管が狭くな

みやしびれ、ツツパリ感が出現し、前かがみで少し休むと、また、歩けるようになる症状のことです。

腰椎椎間板ヘルニアとは、腰にある5つの背骨の間にある椎間板というクッションが壊れて、髄核という内容物が神経の通り道にはみ出し、神経

を圧迫して下肢の痛み、しびれ等を生じる病気です。

坐骨神経痛の治療は、原因疾患にかかわらず、まずは症状を和らげる対症療法が主体となり、薬物療法、ブロック注射、理学療法等があります。薬物療法は、主として痛み止めを使用します。近年、神経障害性疼痛治療薬という新しい鎮痛剤を使って、痛みが神経を伝わるのをブロックする治療が主流です。理学療法は、運動やマッサージ、ストレッチ、温熱療法、電気刺激療法等があります。

対症療法で改善がみられない場合や、排尿、排便に支障をきたした場合は手術が検討されます。坐骨神経痛と思われる症状でお困りの方は、整形外科を受診してみてください。

岩本 柾澄